

令和2年度 事業報告

令和2年3月1日から令和3年2月28日まで

1 会員状況

1.1 法人会員及び団体会員

級 種	令和2年度末	令和元年度末	増 減
1 級	9 社	9 社	±0 社
2 級	4 社	4 社	±0 社
3 級	18 社	18 社	±0 社
4 級	32 社	32 社	±0 社
5 級	78 社	75 社	+3 社
計	141 社	138 社	+3 社

1.2 個人会員

種 別	令和2年度末	令和元年度末	増 減
正会員	898 名	942 名	-44 名
(内・名誉会員)	(10 名)	(10 名)	(±0 名)
(内・永年会員)	(34 名)	(36 名)	(-2 名)
学生会員	83 名	65 名	+18 名
アジア海外会員	20 名	13 名	+7 名
アジア海外学生会員	2 名	2 名	±0 名
計	1003 名	1022 名	-19 名

1.3 名誉会員(10名)

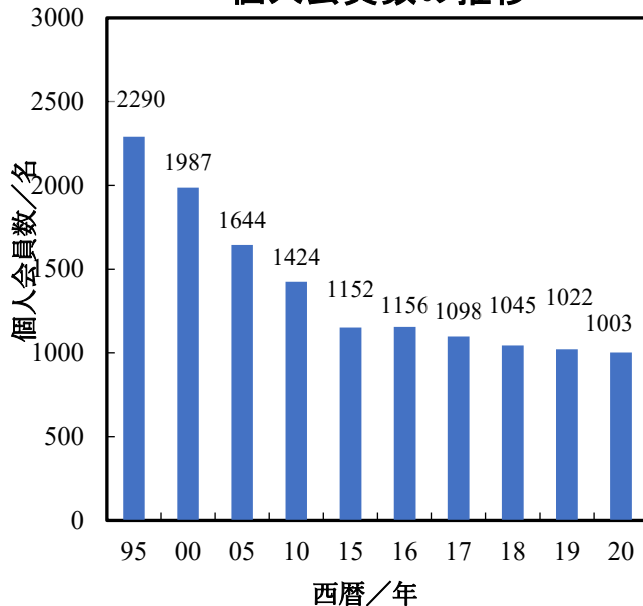
阿部 正彦 池田 功 伊藤 俊洋 荻野 圭三 北原 文雄 島崎 弘幸
田嶋 和夫 常盤 文克 二木 鋭雄 宮澤 三雄

1.4 日本油化学会フェロー(12名)

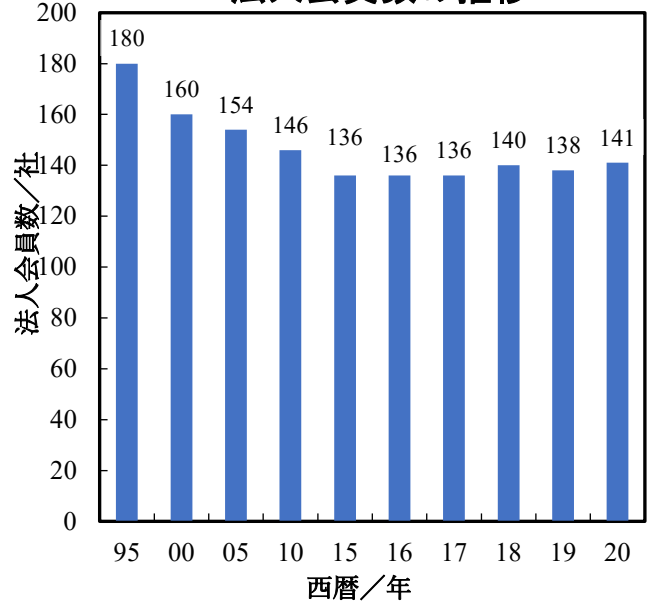
石上 裕 今栄東洋子 岩橋 榎夫 岡崎 三代 佐藤 清隆 菅野 道廣
妹尾 学 武田 徳司 宮澤 陽夫 師井 義清 山根 恒夫 Ching T. Hou

1.5 会員数の推移(個人・法人)

個人会員数の推移



法人会員数の推移



2.1 総会

第 66 回定時総会を令和 2 年 4 月 23 日(木)油脂工業会館 9 階会議室にて開催した。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の緊急事態宣言が 7 都府県に敷かれたため、感染予防の観点から通常の会議形式をとらず、定款に則り、議決権行使書と委任状のみによる書面決議とした。ただし、社員、監事、および担当理事は内閣府が推奨する TV 会議システムで出席し、総会会場の朝倉会長、北本副会長と意見交換して進められた。

出席者数は、総会当日の出席者 11 名(内 TV 会議出席者 9 名)、委任状提出者 26 名、書面による議決権行使者 62 名を合計した 99 名と定款が定める定足数を満たした。

令和元年度事業報告及び決算案が審議され、原案通り可決・承認された。さらに、令和 2 年度の役員(理事 3 名、監事 1 名)の選任が行われ、原案通り可決・承認された。そして令和 2 年度収支予算の報告が行われ、予定の内容を全て執り行い閉会した。

本来ならば引き続き、定時総会報告会／表彰式／講演会／懇親会が開催される予定であったが、COVID-19 の感染拡大を防ぐために開催を見送り、表彰式は年会の場で行うこととした。令和元年度の名誉会員、フェロー推戴者、および功績賞、進歩賞、女性科学者奨励賞の受賞者は以下の通り。

- ① 日本油化学会名誉会員
奈良先端科学技術大学院大学客員教授／近畿大学名誉教授 宮澤 三雄 氏
- ② 日本油化学会フェロー
東北大学教授・名誉教授 宮澤 陽夫 氏
- ③ 日本油化学会功績賞
慶應義塾大学名誉教授 小山内 州一 氏
- ④ 日本油化学会功績賞
元京都工芸繊維大学教授 老田 達生 氏
- ⑤ 日本油化学会進歩賞
福島大学 農学群 吉永 和明 氏
- ⑥ 日本油化学会進歩賞
産業技術総合研究所 機能化学研究部門 佐藤 俊 氏
- ⑦ 日本油化学会女性科学者奨励賞
福岡工業大学 工学部 桑原 順子 氏

2.2 理事会

理事会を 6 回開催し、令和元年度決算案の承認、令和 2 年度役員として副会長・第 59, 60 回年会実行委員長、財務委員長、規格試験法委員長および監事の選定、各支部長、各専門部会長の委嘱を行い令和 2 年度の運営体制を確立した。また令和 2 年度の推戴・表彰では、日本油化学会フェロー、功績賞、女性科学者奨励賞及び日本油化学会 学会賞、進歩賞を承認した。公益事業の運営に関しては、COVID-19 禍での学会運営について審議を重ね、令和 2 年度は第 66 回総会と第 59 回年会を Web システムを活用して開催すること、そして令和 3 年度は未だ COVID-19 の収束が見通せない状況でも講演会・セミナーが継続できる Web システムをインフラ導入することとした。そして第 60 回年会は討論の臨場感を参加者が享受できるように依頼講演と質疑応答をライブ方式で行うこととした。更に創立 70 周年記念事業として令和 4 年度に釧路で開催する第 2 回世界オレオサイエンス会議(2nd World Congress on Oleo Science, WCOS 2022)も、COVID-19 の状況に応じた開催方法を決議した[出席理事 延 81 名、出席監事 延 12 名]。別に、定款第 34 条に基づく決議(書面による審議)を 4 回開催し、内閣府に定期的に提出する書類(令和元年度事業報告等に係る提出書類等および令和 3 年度事業計画等)、JOS の 2 次利用著作権、COVID-19 禍での代議員選挙の開票方法を承認した。

2.3 運営委員会及び業務委員会等開催状況

運営委員会は5回開催し、各業務委員会は次の回数を開催した。

総務委員会(メール審議)	4回	国際交流委員会(TV会議)	2回
財務委員会(TV会議)	2回	企画・部会統括委員会全体会議(TV会議)	2回
企画・部会統括委員会(TV会議)	3回	学会賞等選考委員会(TV会議)	2回
規格試験法委員会	4回	オレオサイエンス編集委員会(TV会議)	3回
役員等候補者推薦委員会(メール審議を含む)	2回	JOS編集委員会(メール審議)	2回
日本油化学会創立70年記念準備委員会	2回	功績賞等推薦委員会	2回

運営委員会は、当会の継続的な活性化・財務基盤の安定を図るべく検討を進め、第59回年会をWeb開催するための企画・運営・予算、表彰事業の資金運用法とその規程、名誉会員・フェロー推戴及び功績賞等の候補者を理事会に提案し承認を得た。

総務委員会は、定款が定める書面決議をコロナ禍に備え電子媒体で行う一部改訂、表彰事業を継続するための資金運用規程を進め理事会の承認を得た。財務委員会は、令和2年度決算(案)と令和3年度予算書(案)を作成し理事会の承認を得た。企画・部会統括委員会は、年会をコロナ禍で開催するためにWebで行う依頼講演を企画立案して理事会の承認を得た。また、令和3年度にコロナ禍でも講演活動が継続できるようWebインフラを検討して理事会の承認を得た。規格試験法委員会は、優れた油脂分析法を開発して公開した。また「JOS」誌及び「オレオサイエンス」誌の編集・発行(Web上公開も含む)を行った。更にJOS編集委員会は、質の高い研究論文を集めるために、公的助成金を受けた研究成果の投稿先として日米欧で指定されているオープンアクセス誌となることを目指し、その要件である2次利用著作権を検討して理事会の承認を得た。

3 事業報告

3.1 (公1)研究成果の公開、人材教育、研究の奨励及び業績の表彰を行う事業

3.1.1 研究成果の公開

3.1.1.1 第59回日本油化学会年会

コロナ禍でも安全にしっかりオレオサイエンスの討論ができる年会を実現するために、年会のテーマを「こんな時代に - 奮勇を奮わず、正しく恐れ、使命を果たす」として会の結束を高め、第59回年会を令和2年11月2日(月)～7日(土)にWeb方式で開催した。Web開催の企画と運営は、朝倉会長を委員長とする実行委員会を中心に、支部・部会各方面の協力を仰いで行った。

会期	: 令和2年11月2日(月)～7日(土)
会場	: 学会事務局を拠点とするWeb開催
内容	: ①参加者総数 484名
	: ②講演件数: 発表総数 142題
	: 一般公演: 113題
	: ・口頭講演 81題
	: ・ショートプレゼンテーション 32題
	: 依頼公演 29題
	: ・界面化学特別講演 2題
	: ・招待講演 5題
	: ・受賞講演 5題
	: ・地区講演会 5題
	: ・ミニ・フレッシュマンセミナー 12題

参加者は484名、講演の合計は142件であった。第一線の先生方にお話しいただく依頼講演は、本部、支部、専門部会で連携し、今年度に通常開催を予定していたが対面方式で開催できなくなった企画の講師を含めご協力を頂き、Webシステムで開講して高い視聴率を得た。また一般の口頭発表では、英語発表件数が前年4件から16件に増え、国際化を目指して英国王立化学会(The Royal

Society of Chemistry, RSC)と新設した国際発信力に優れた英語発表者に贈る RSC Advances 賞を 2 名に授与した。また口頭発表では他にも、全若手研究者の中から優れた 2 名を選考しヤングフェロ-賞を授与し、全学生研究者の中から優れた 8 名を選考し学生奨励賞を授与した。そしてポスター発表の代わりに設定したショートプレゼンテーションの発表では、優れた 7 名を選考してショートプレゼンテーション賞を授与して、研究の功績を讃えた。

会期の最終日には TV 会議にて閉会式を開催した。総会で実施できなかった令和 2 年度の推戴・表彰者の紹介と年会の振り返りを行い、94 名もの参加を頂いた。

3.1.1.2 日本油化学会会誌(論文誌・会員誌)の発行

(1)「Journal of Oleo Science」誌 第 69 巻第 1 号～12 号総ページ数 1,666 ページ

論文誌として、冊子版と電子版を発行しており、69 巻は原著論文 137→172 件、特集号(6 月:The Inter-College of Physical Chemistry 2019. 7 件(うち総説 2 件)掲載)に関する Editorial Message 1 件、Annual Index を掲載した。また、ページ外で、投稿規定、入会案内等を掲載した。なお、Impact Factor (IF と略)は、2019 年は 1.208→1.304、5 年平均 IF は 1.374→1.475 と増加し引用回数が高まった。J-STAGE(電子版)では、総説は XML 形式でも公開、WEB 公開でのカラー公開(原則全てのカラーの図・写真。冊子のカラー印刷は希望者のみ)・電子附録(Supporting Information)の公開・Graphical Abstract の登載・早期公開、を継続推進した。質的には、外国人の編集委員が 10 人参画し論文の多様化に対応した。

掲載内容	報文	149 件
	ノート・速報	17 件
	総説	6 件

(2)「オレオサイエンス」誌 第 20 巻 第 1 号～12 号 総ページ数 582 ページ

特集 12 件(各特集の序言も掲載)を企画したほか、巻頭言、表彰、会務、若手研究者紹介、Topics in Oleo Science、主催報告、学会情報、研究室紹介、JOS 投稿論文(一部 Graphical Abstract 掲載)、書評、会員のひろばなど、会員に役立つ情報を中心とした会員向けの学術情報誌として編集した。また、総説については、編集委員の査読による一層の質的向上を図り、図はできる限りカラー印刷した(図を集約してカラーページを減らすなどコスト削減に努めた)。ページ外では、資料(基準油脂分析試験法)、会告(色紙印刷の年会のプログラムを含む)、目次等を、206 ページ編集した。総説類の J-STAGE 公開は本誌発行の直後に行った(online の ISSN は 20 巻 1 号から記載)。

掲載内容	特集総説・受賞総説・総説 Topics	43 件
	若手研究者紹介	4 件
	Topics in Oleo Science	3 件
	油脂関連情報	44 件

(特許情報はまとめて 1 件と計算)

その他(巻頭言、特集序言、表彰、会務、主催報告、学会情報、研究室紹介、JOS 投稿論文、書評、会員のひろば、資料など)

3.1.2 人材教育

本部主催の人材育成事業は、企画・部会統括委員会を中心に、毎年、フレッシュマンセミナー(油脂)、フレッシュマンセミナー(界面)を開催しているが、参加者が多いために密になることが想定されたので従来の対面講義を中止し、Web 配信の設備を整えた年会で開講した。講演は油脂・界面とも 6 講座を録画配信し、質疑応答はチャットで行った。油脂と界面の 1 講座当たりの平均視聴回数は、それぞれ 270 回と 324 回と高く、遠方であっても好きな時間に繰り返し再生して理解度があがると好評であった。フレッシュマンセミナー界面のテキスト「界面と界面活性剤(改訂第 2 版 3 刷)」は、令和 2 年 10 月に発刊し、本フレッシュマンセミナー(界面)で配賦して活用した。

3.1.3 研究の奨励・業績の表彰

本会では、油脂・脂質、界面活性剤及び関連分野の科学と技術を対象としたオレオサイエンスの進歩を奨励し、人材を育成するために、著しい成果をあげた研究者を表彰してその功績を学会ホームページ、会誌、総会、年会等で紹介し栄誉を讃えている。令和2年度の推戴・表彰者は本報告書の総会の項で記載した7名。JOS論文については、編集員が優秀と認めた論文のファーストオーサー2名に第23回JOSエディター賞を授与し、最も引用数の多い論文のファーストオーサー1名に第14回インパクト賞1名を、そして最も投稿数の多いファーストオーサー2名に第10回JOSベストオーサー賞を授与した。オレオサイエンス誌については、編集委員会が優秀と認めた総説3件の著者5名にオレオサイエンス賞を授与した。また本会の発展やオレオサイエンスの発展に功労のあった会員への功績賞等の選考も実施し、第67回定時総会の席上等で表彰する。

3.2 (公2) 評価・試験法の標準化と普及を行う事業

規格試験法委員会を開催して優れた油脂分析法の開発を行った。次の2つの試験法を確定し「基準油脂分析試験法」に追加することとした。

奨 8-2020 全窒素及び粗タンパク質(燃焼法)

奨 9-2020 遊離ゴシポール(高速液体クロマトグラフ法)

毎年開催している基準油脂分析試験法セミナーは、COVID-19感染拡大防止の観点から開催を見送り、コロナ禍でも安全に受講できるWeb開催とした第59回日本油化学会年会の企画、ミニ・フレッシュマンセミナー油脂の講師を務めて基準油脂分析試験法の普及に努めた。

3.3 (公3) 地域における学術の振興と普及を行う事業

例年、(一財)油脂工業会館の共催を得て各都市で開催している地区講演会では、一般市民を対象としてオレオサイエンスの知見を振興・普及している。今年度はCOVID-19の感染拡大防止対策を施し、開催を11、12月に延期して3件実施した。1件目はWeb開催した年会での同時開催、2件目は宮城県名取市尚綱学院大学地域連携プラザを中継基地としたWeb開催、3件目は定員を半分に減らした名古屋市での開催。講演では、油脂を原料として生産される化粧品、食品、界面活性剤など私たちの生活を支えている身近な製品の価値を築く研究事例として、化粧品の感触研究、チョコレートのおいしさの研究、洗剤の泡立ちの研究を紹介した。なお大阪市、金沢市での開催は中止とした。また、界面科学部会と共催で行っている界面科学実践講座は、名古屋市立大学を中継基地としたWeb開催で12月に開催した。

これら講演会・セミナーの企画を充実させるため、幹事会等を下記のとおり開催した。

[支部委員会等の開催]

- ・関東支部 常任幹事会3回、幹事会1回
- ・東海支部 常任幹事会5回、支部合同役員会1回、支部将来計画委員会1回
- ・関西支部 常任幹事会3回、幹事会合同会議2回

[支部の行事開催]

各支部による講演会、セミナー等の行事は、延10日開催し、参加者数は延615名を数えた。ご出講いただいた講師の先生方は延17名。

・関東支部	開催日数	6日	参加者数(視聴回数)	484名	講師	5名
	開催日数	2日	参加者数	54名	講師	4名
・東海支部	開催日数	2日	参加者数	77名	講師	8名

3.4 (公4) 学術専門分野の活性化事業

学術専門分野の活性化については、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、ライフサイエンス・産業技術部会およびオレオナノサイエンス部会が活動を展開し、それぞれの専門分野を深耕した。また、マスターズクラブは、学際的な視点・分野横断的な視点も加えた活動を展開した。

オレオマテリアル部会は、オレオサイエンス分野における機能性分子の合成、新材料創製および環境問題等において優れた業績を上げた者を選定し3名にオレオマテリアル賞を授与した。本業績は第59回年会の受賞講演で紹介された。界面科学部会は、東海、九州の各地区と共催で講演会を開催した。洗浄・洗剤部会は、第52回洗浄に関するシンポジウムを10月にWeb開催した。

各支部及び各専門部会等は、それぞれのリーダーの指導の下、独自に運営を行っているが、企画・部会統括委員長が年2回開催する全体会議で情報交換などを行い、必要に応じスケジュール等の調整を行った。

以上の通りであるが、令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので、事業報告の附属明細書は作成していない。

(第466回 理事会決議)